

三方よし

藤枝市立藤枝中央小学校



道徳の授業

校長 新村和彦

朝、3年生のA子さんと一緒に「仲よし小径」を歩いて、学校に向かうことがたびたびあります。

ある朝、「仲よし小径」に白いごみがこびりついていたので、私は、何だと思い、持っていた横断旗の柄で、かりかりと剥がし取ろうと試みました。剥がしている途中で、その白いごみは、習字で使う半紙だと気付きました。

A子さん：「校長先生、ごみを拾うってことは、運を拾うことなんだったって。」

新村：「そうなの？」

A子さん：「だって、道徳の授業でやったもん。」

道徳の授業で、【ごみを拾うのは何のため？】という勉強をしました。授業の目的は、「公共の場で、進んでごみをひろう日本人の思いについて考えることを通して、自分の身の回りをきれいにし、みんなが気持ちよく生活できるようにしようという心情を養う。」です。授業の中で、担任は、メジャーリーガーの大谷翔平選手のごみ拾いについて紹介しました。



ごみを拾うことは、運を拾うこと

彼女は、道徳の授業の中で印象に残っていた、「ごみを拾うことは、運をひろうこと」を覚えていて、声を掛けてくれたのです。

後日のある朝、彼女に会うと、コーヒーの缶を拾ったと報告してくれました。

A子さん：「今日、コーヒーの缶を拾った。」

新村：「おっ、えらいね。どうして、拾おうと思ったの？」

A子さん：「だって、道徳の授業でごみの勉強をしたから。」「1回通り過ぎたんだけど、勉強をしたことを思い出したから……。」

そのコーヒー缶は、通りかかった旗振りの女性が、コンビニのごみ箱に捨ててくれるということで手渡したそうです。

以下は、「特別の教科 道徳」の目標です。

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的、多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。



道徳の授業で一番難しいことは、授業で習った道徳的価値について、子どもが自覚し、道徳的な実践に繋げていくことです。

計算方法や漢字など、習って理解できたり覚えたりすれば、すぐにテストの点数に反映されます。しかし、いくら道徳の授業で「親切」について習っても、その子がすぐに「親切な子」になるかといったら疑問です。「勤労」について学んだ子が、働くことのよさを知り、みんなのために働くことのできる、「働き者」になるかといったら、そんなことは、ありません。道徳授業の難しさは、「わかっちゃいるけど……(なかなか、できないよ)」なのです。そう考えると、コーヒー缶を拾うという実践に結びついた女の子の行動は、とても立派であり、価値ある道徳の授業だったと思います。

現在、大体の学級で授業をリモート配信していますが、早くコロナが収束し、普通に対面で授業が行えるようになってほしいと切に願っています。

※ちなみに、自分も大谷選手の「ごみを拾うことは、運をひろうこと」を実践しています。その「運」は、あまり純粋な「運」とは言い難いものですけど……(照)